

# 国友鉄砲鍛冶 下

前号で国友鉄砲鍛冶の技術的地盤、繁栄ぶり、鉄砲づくりそのものについて記してみました。今回は少し視点を変え、銃身に使われた鉄について考えてみたいと思います。

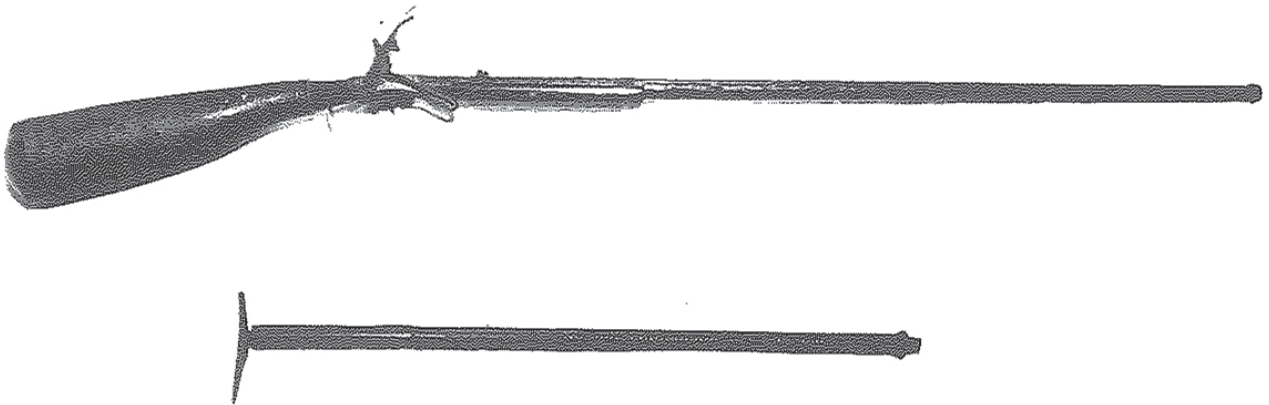
## 国友藤兵衛一貫斎

一貫斎は安永7(1778)年、国友鉄砲鍛冶の次席である年寄脇の家に生まれました。彼は幕末の激動期に生涯を過ごしましたが、その仕事ぶりには目を見張るものがあります。オランダから輸入した「風砲」「望遠鏡」に独創

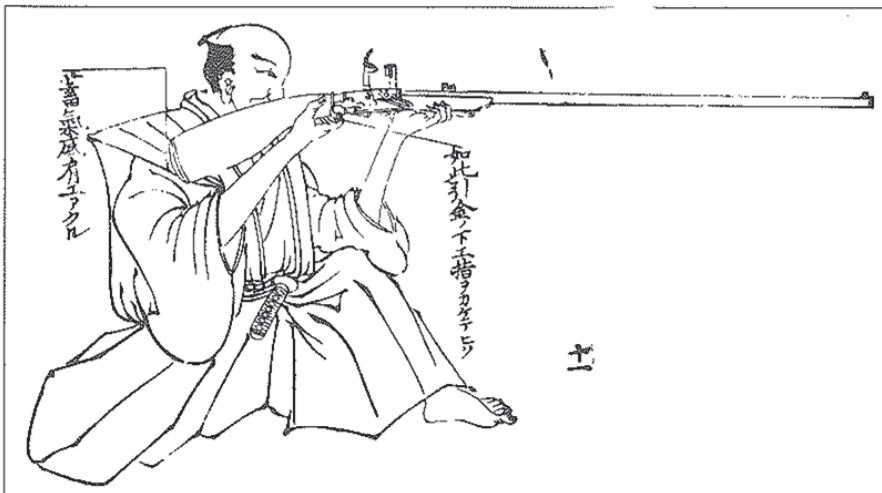
的な改良を加え、「気砲」「天体望遠鏡」をつくり上げたり、懐中筆・玉燈など数多くの発明品があります。

もちろん一貫斎は鉄砲鍛冶としてもすこぶる有能で、彦根藩が名ざしで2百目玉大筒製作を依頼していることや、文政元(1818)年にあらわした「大小御鉄砲製作控」はその才能をよく示しています。

「大小御鉄砲製作控」は、従来秘伝にされ鉄砲鍛冶の勘のみに頼っていた鉄砲製作の方



気砲 銘 江州国友藤兵衛能当作 江戸時代後期 (国友昌三氏蔵)



気砲記 江戸時代後期 (国友英之丞氏蔵)



法に規格を定め、一般の鍛冶でさえこれをうてるようにした画期的書物です。その一貫齋が鉄について興味深い記録を残しています。

### 鉄を選ぶ眼

(1)鉄は出雲・播磨のものがよい。備中・備後は次、陸奥・仙台・安芸の広島はその次、伯耆・美作・石見は次の次(中略)また菊一という鉄があるがこれはよいものである。

(2)釘は播磨の宍粟郡のものが最上、千種鉄ともいう。出雲の卯賀のものも上品(以下略)

(3)このように国内でとれる

鉄の中で上中下あるが、今ごろはどうも製品表示があいまいで見分けにくい。どの鉄も釘も千種鉄というので判別しにくく、そのため鉄の見分け方をいろいろ工夫している。

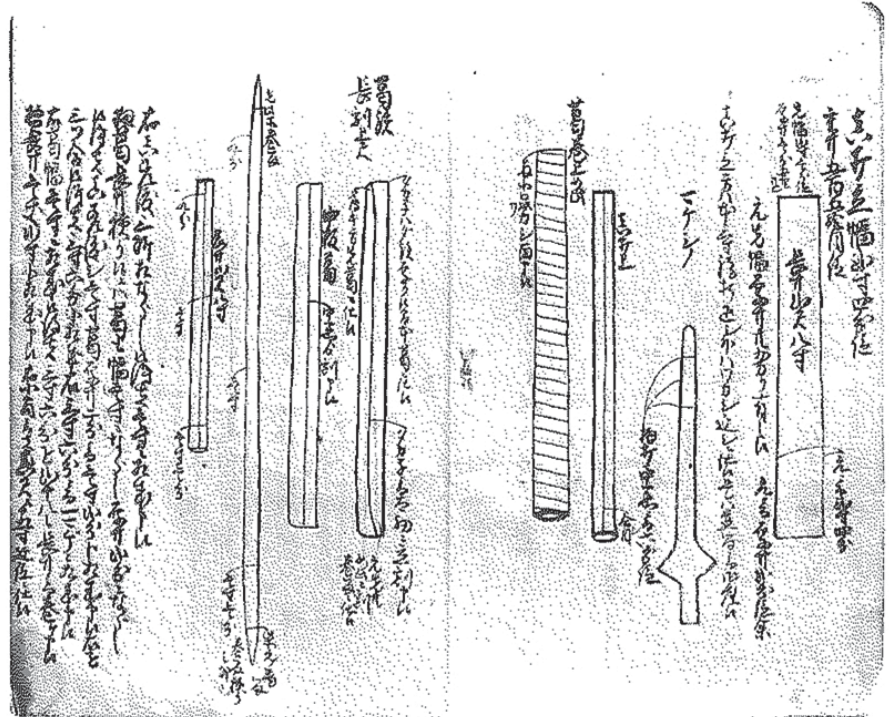
(上記の文章は「一貫齋国友藤兵衛伝」有馬成甫筆、昭和7年、武蔵野書院の243頁から抜粋、現代文としたもの)

一貫齋が有能な鍛冶であることは、現存する数々の作品が物語っていますが、この記録は、彼が材料を吟味する厳しい選定眼の持ち主であることを示しています。

### 鉄砲に使われた鉄

何故このように鉄を厳しく選び出す必要があったのでしょうか。それは鉄砲という兵器の特殊性—火薬の強力な爆発によって弾丸を押し出すという機構—からくると思われます。当然、銃身は爆発力に耐え、破裂とゆがみの生じないことが要求されます。これを充たすための条件が質の良い鉄、そして有能な鍛冶の存在です。

鉄砲にとって質の良い鉄とは一体どのようなものでしょうか。それは粘り気が多くかつ強靭な良質錬鉄です。この良質錬鉄は、一貫



大小御鉄砲張立製作控 文政元(1818)年 (国友英之丞氏蔵)

齋の言うように出雲・播磨より産する真砂鉄を原料として製出されます。真砂鉄は黒雲母花崗岩の風化したもので、チタン・燐などの不純物がきわめて少ないという特長があります。ちなみに近江の鉄は岩鉄より製出されていますが、チタンを多く含み、鋳物用としてはよいが刀剣鉄砲等の材料としては不向きといわれています。

### タタラ

真砂鉄を使って鉄を作る方法を鉤押法とよび、天文年間(1532~1555)、まず播州宍粟郡の千種鉄・石州邑知郡の出羽鉄などが作られ、やや遅れて伯州・雲州の鉄山も同様の方法をとるようになります。こうして各地に製鉄業(タタラ)がおこりますが、特に良質の真砂を大量に産する山陰、奥出雲に江戸時代以降その中心が移っていきます。このような大規模経営形態の製鉄場が発生した背景には、戦国期における鉄砲、刀剣の需要増大があることは間違いありません。

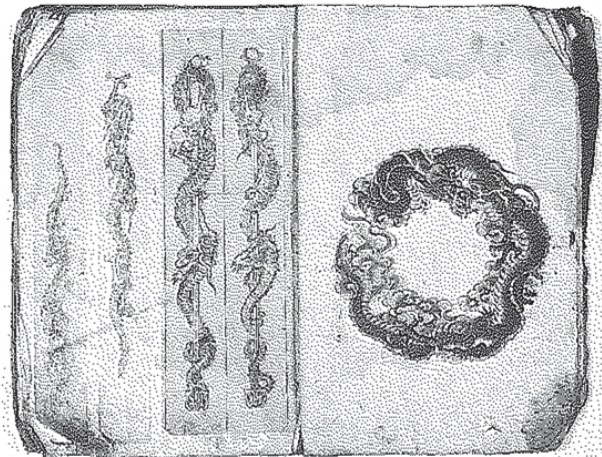
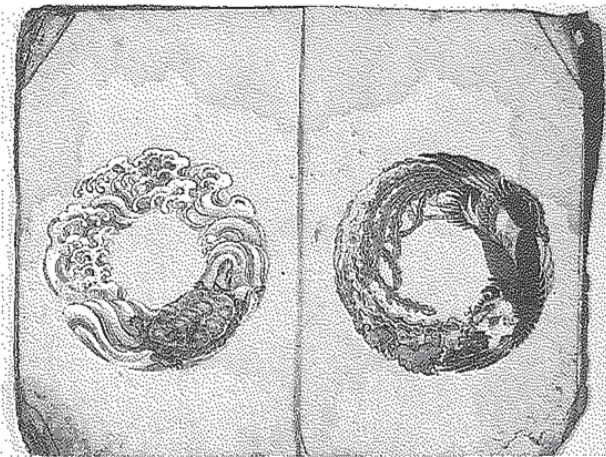
### 鉄の道

ではこうして作られた鉄はどのようなルートを経て国友へ運ばれたのでしょうか。主とし









象眼下画帳 江戸時代後期（国友昌三氏蔵）

次のタタラ関係文書を有する桜井家は、明治に入っても製鉄経営を続けたいわゆる出雲の三名族の一家で、一貫斎が優秀鉄として推称した「菊一」鉄はここで作られた。

御用鑑札 ▶

享保4(1719)年  
(島根・可部屋  
集成館蔵)

松江藩の御用交通手形で藩役人天野源兵衛、鉄師桜井三郎左衛門、鉄砲師国友徳左衛門の名が見える。

国友徳左衛門は国友鉄砲鍛冶を統轄した四年寄の一人。



(表)

(裏)

▼近江御鉄砲所<sup>地鉄御用</sup>御目録写<sub>差越付候</sub>

安永6(1777)年

(島根・可部屋集成館蔵)

国友鉄砲鍛冶国友徳左衛門、国友助太夫の連名で、鉄師桜井三郎左衛門宛出された鉄砲用板注文書。

百円玉、三捨目玉鉄砲を作るに際して必要な鉄板の大きさを明記し依頼している。

